

【令和 4 年度 学年始め保護者会挨拶】

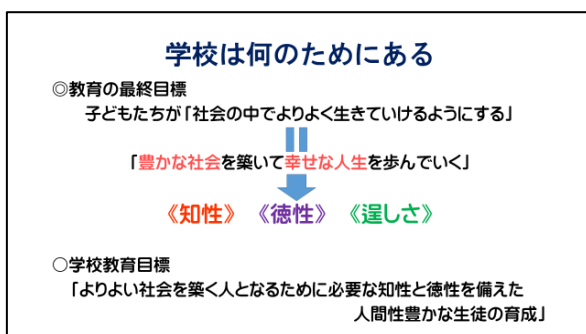


今年度始めの保護者会においでいただきありがとうございます。また、日頃、本校へのご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、新型コロナ感染も3月にはまん延防止等重点措置も解除となりましたが、感染状況は依然として高止まりとなっております。そのよう

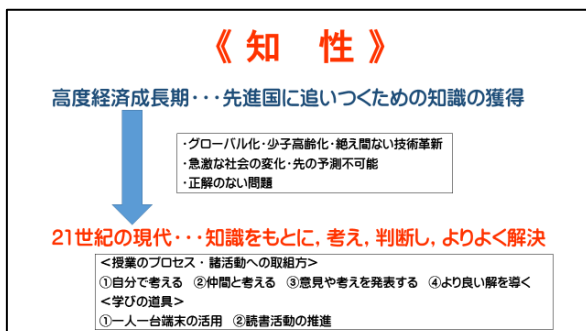
な中、4月5日に始業式、8日に入学式を実施し、令和4年度をスタートしました。1年生150名の4学級、2年生152名の4学級、3年生170名の5学級に特別支援学級が3学級で、合計472名、16学級となります。

今年度も、with コロナの一年になりそうですが、先週の木曜日には体育館で新入生歓迎会を対面で開催することができました。入学式は残念ながら在校生の参加は叶いませんでしたが、保護者2名の出席で挙行することができました。5月20日にはスポーツフェスティバルも予定しております。今年度も感染防止のため参観は3年生の保護者のみとさせていただく予定ですのでご了承ください。今年度は、これまで中止としていた行事等も可能な限り実施してまいりたいと考えています。家庭での毎日の健康観察、校内にウイルスを持ち込まないために体調がよくない時は大事をとって休んでいただくなど、引き続きご協力をお願いいたします。



今年度の柏中の教育活動ですが、学校は何のためにあるのかを考えると、教育の最終目標は、子どもたちが「未来の社会の中でよりよく生きていけるようにする」ことだと考えています。これは、「豊かな社会を築いて幸せな人生を歩んでいく」ことで、社会が幸せな状況で、かつ、個人

が幸せを感じる、社会と個人の両方が幸せな状態にあることで、そのために必要な資質・能力は、「知性」と「徳性」と心身の「逞しさ」であると捉えています。そこで、柏中の学校教育目標を「よりよい社会を築く人となるために必要な知性と徳性を備えた人間性豊かな生徒の育成」として、教育活動を進めているわけです。



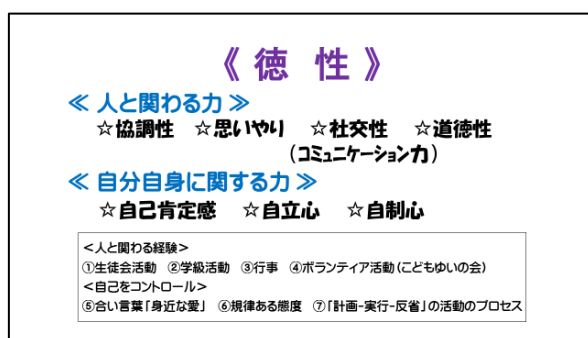
「知性」は、戦後の高度経済成長期には先進国に追いつけとばかりに膨大な知識の獲得が求められていましたが、先進国となった現在は、世の中はAIに代表される飛躍的な技術革新や経験したことのない新型コロナウイルスなどの感染症の爆発的な

流行、ロシアの突然のウクライナ侵攻など、予測ができないようなことが次々に起こったり、生活様式が急激に変化したりする社会の中で、これが正解という模範解答がない問題に、どう考え、判断して行動したら良いのかを常に問われる時代となりました。柏中では、知識をもとにして、よりよく考え判断して解決できる「知恵」を「知性」と捉え、育んでいきたいと考えています。

そのために、授業では基本的な知識を確認して、問題に対して自分一人で考える、仲間一緒に考える、意見や考えを発表する、最終的にベターな答えを導き出すというプロセスで指導・支援しています。

また、そのための道具として昨年度から導入された一人一台端末も有効に活用していきたいと思います。子どもたちは、すでに端末を使って調べたり、まとめたり、プレゼンしたりは当たり前になるようになってきています。使い方、情報モラルの問題は常についてまわりますが、時代は端末も鉛筆やノートと同じ日常的に使う文房具となっていますので、使いながら継続的に指導していきたいと思います。ご家庭でもお子様と使用についての約束などを決めて、正しい使い方について指導していただきますようお願いいたします。

また、読書についても推進していきたいと思います。読書離れが叫ばれる昨今、スマホを大切に握りしめて、暇があればSNSやゲームばかりでは、豊かな情操を育むのは難しいと思います。どんなにデジタル化が進んでも、活字を読む能力は常に必要です。朝読書として10分間読みますので、これ以外に自分の時間で20分、たとえば夕食ができるのを待っている時間や寝る前のちょっとした時間などで、一日に合計で30分以上の読書ができることを推奨していきたいと思います。



「徳性」についてですが、これはいわゆる道德心のことです。一人一人が幸せに生きるためには、個人をとりまく社会全体が幸せな状態でなければなりません。社会生活においては、人と人の関りは欠かせませんから、よりよい人間関係を築いていくための協調性や思いやり、コミュニケーション力（社交性）、道徳性といった「人と関わる力」と、個人として幸せに生きていくための自己肯定感や自立心、自制心などの「自分自身に関する力」に特に重点を置いて指導・支援していきたいと思います。

そのためには、生徒会活動や学級活動、行事などの取組を通して、人と人との関わり方を学ぶ経験をより多く積めるようにしていきたいと思います。

また、自分自身に関する力については、中学生は、心と身体がめざましく成長し、活力にあふれ、どんなことにも積極的に取り組める時期です。しかし、自分のわがままや衝動のままに行動してしまう危うさもある時期でもあるので、規則正しい生活習慣を築き、自分をコントロールする強さを持って中学校生活を送ることができるように支援・指導していきたいと思います。

《 逞しさ 》

《 厳しい社会の荒波を乗り越える力 》

☆我慢(忍耐)強さ ☆粘り強さ ☆レジリエンス(折れない心)

<主な取組>

- ①「勇者の旅」プログラムの実施
- ②担任等との教育相談
- ③スクールカウンセラー
- ④スクールソーシャルワーカー
- ⑤ハピネスルーム(校内適応指導教室)
- ⑥個別支援教員

「逞しさ」についてですが、優秀な成績で大学を卒業して就職しても、職場で叱責されたり、仕事で失敗して、引きこもりになってしまったりする残念な例は最近たくさん聞きます。思い通りにならないことがあるたびにふて腐れたり、傷つき、落ち込み、心が折れたなどと言っていた

りしていたら厳しい社会の荒波を乗り越えていくことはできませんから、我慢強さ(忍耐強さ)、粘り強さ、あるいはレジリエンスというストレスを上手く跳ね返す折れない心を身につけて欲しいと思います。学校生活では様々な場面で子どもに負荷がかかりますので、上手に乗り越えられる力がつくように支援していきたいと思います。また、今年度は、新入生を対象に千葉大学で開発した「勇者の旅」という不安案な気持ちへの対処の仕方を学ぶプログラムを3時間実施しました。

しかしながら、学校生活を送る中では、失敗や壁にぶつかり挫折したり、人間関係や自己コントロールが上手くいかず、落ち込んだり悩んだりすることも多々あるのも事実です。そんな時には、遠慮なく担任等に相談して欲しいと思います。あるいは、柏中にはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーがおりますから、生徒でも保護者の皆さんでも相談できますので気軽にお声がけください。また、ハピネスルームという学級とは別に教室を用意して、個別支援教員を配置しています。ちょっと教室には入りにくい時はこちらで学習することもできます。



柏中は、厳しく指導もしますが、一人一人の状況に応じて温かく支援することにもいとわな学校でありたいと思っています。ご理解とご協力をお願いいたします。